千代田区障害者就労支援センター通信

JJ ちよだジョブコーチジャーナル

働くことを応援する

No. 62

～その人らしさを大切にしたインクルーシブ雇用～

●左 澤さん　中央 高津さん　右 岡島さん

医療法人社団一秀会 葛飾橋病院

葛飾橋病院 デイケアセンターオアシス
イメージキャラクター
オアペンくん

葛飾橋病院デイケアセンターオアシス

【 会社概要】
葛飾橋病院デイケアセンターオアシス（ 医療法人社団一秀会 葛飾橋病院）
所在：〒125-0041 東京都葛飾区東金町7丁目33-1
葛飾橋病院デイケアセンター「 オアシス」はグループ活動を通じて、リカバリーを目指す治療の「場」です。その人らしく地域で安心して暮らせることを応援しています。
http://daycareoasis.pinoko.jp

● 短時間雇用の取り組み

葛飾橋病院デイケアセンターオアシスでは、５年前より病院内での短時間（障害者）雇用の取り組みを始めました。当初より澤さんが感じていました「 障害者雇用の週 20 時間のハードルの高さ」「 さらなるスモールステップがふめる就労場所の必要性」がきっかけとなり実現されました。大切にしていることは、時間の長さだけではなく、その人柄を知り、強みを知り、そこから働き方を考えていくことです。良い変化は、顔見知りの関係性や近くに主治医がいる環境であることで安心して働くことができ、体調も安定しパフォーマンス向上にも繋がっています。今では他部署からの仕事の依頼も増えるなど、戦力となって活躍されていらっしゃいます。

● 医療の現場から「 働きたい!」を実現

看護師の岡島さんはデイケアと病院の懸け橋となり現在の病院内の短時間雇用に取り組んでいらっしゃいます。「 医療の現場から就労を提供すること」について、医療介入を要する時期の様子を知っていることもあり、医療から就労へ直結することに心配な声もありました。澤さんの「 やってみようよ」という前向きな姿勢に共感と可能性を広げていきたいという思いで進めてこられました。その結果、医療の新たな役割を考える良い機会となり、患者と支援者の枠がなく同じ職員として互いに支えあい成長していける関係となっています。

● ロールモデルとして、ピアスタッフとして活躍

現在、外来の清掃や入院患者の方にデイケアの入院説明の対応や事務作業など多方面でスタッフの皆さんが活躍されています。当事者ならではの「 価値あるサービス提供」に感謝のお声が多く寄せられています。「 いつか私も回復する、いつか私もこのように働けるようになる」と希望の存在となっています。

● スタッフインタビュー　※３名の方にお願いしました。

代表で高津さんは対面でインタビューいたしました。

高津さん（ 入社したきっかけ）
リハビリを続けて２年ほど経ち症状が安定した頃に清掃員の募集があり是非働きたいと思い応募しました。

（ 働きやすさ）
患者である私を知ってもらえている安心感と、細かなことでもマニュアルに起こし業務を可視化できることに働きやすさを感じます。

（ 仕事へのやりがい）
「 いつも心地よく使えています、ありがとうございます。」というお言葉を頂き、やりがいを感じ自分の仕事が人の役に立っていることを実感できます。

（ 今後の展望について）
就労経験が浅い方、未経験の方が就労体験を提供できる仕組みを作ることです。個人的には統合失調症をはじめとする精神障害に対する偏見を共感に変える活動がしたいです。直近ですと当院で「 心の空模様セミナー」という当事者、家族、支援者を対象とした会を開き、自らのリカバリー体験をお話しさせて頂きました。今後も機会があれば色々なことに挑戦していきたいです。

猪股さん（入社のきっかけ）
リハビリ中に用務員の業務のお話を頂き、お世話になった病院に恩返しがしたいという思いからです。
（働きやすさ）
患者としての理解を得て就労できること、顔なじみであることで何かあれば声を掛けやすい環境であることです。
（仕事へのやりがい）
業務を継続していくことで「自分の成長」を感じられることです。
小谷さん（入社したきっかけ）
患者として利用していた際に、用務のお話を頂き、見学、実習と段階を踏んで進むことで前向きに挑戦したい気持ちになりました。
（働きやすさ）
通い慣れていること、精神疾患に理解がある環境といった点です。
（仕事へのやりがい）
利用されている方、ご家族、職員の皆様が少しでも快適と感じる環境を提供し続けていきたいです。

● その人らしい自己実現をサポートし続けたい！

デイケアのプログラムでは、日常生活安定チームと就労準備チームの２グループ構成で行っています。全ての利用者の方の声に耳を傾けることや、切れ目のない支援を提供すること、「どのような人生を歩んでいきたいか」その中の一部が就労である考え方を大切にしています。定着支援では、月１回の振り返りを就労スタッフ（当事者）中心で行っています。「言葉にして共有する場」をテーマに、自分のことを皆に知ってもらうこと、お互いを称える機会を大切にしています。共に支えあう関係、自分を見せ合える関係、安心して自己開示できる関係性をはぐくむことでセルフコントロールできるように、活躍の場、自己実現の可能性が広がっていくと考えています。

●高津さんの『心の空模様セミナー』の様子

● 取材を終えて

今回取材させて頂き、患者と支援者ではなく職員同士が協働しながら病院の運営に携わっている一体感が伝わりました。岡島さんの「挨拶、互いの思いやり、価値観を押し付け合わない関係、折り合いを図る」ことを大切に考え、人との繋がりを深めていく場を提供していきたいという言葉が印象的でした。そして、澤さんは「その人らしく生きること」を大切にしながら、医療の現場が社会参加の良い循環機能となれるよう意欲的に取り組んでいらっしゃいます。「楽観性」を大事にして「まずはやってみよう、そこから考えていこう」と可能性を狭めない考え方がインクルーシブ雇用に重要であると思いました。取材の最後、ピアスタッフの高津さんより「想い描くことで自分の未来が変わる」出来ないことがあっても、いつかできるようになると想い描き工夫し続けていくことを大切にしていますと、素敵な笑顔で答えられた姿が「その人らしさ」を実現していると実感致しました。
（インタビュー / 構成：麻野 由紀子）

EVENT × NEWS

令和5年度第2回地域交流会 誰もが活躍できる「働き方」を考える ～ひきこもりから社会への一歩～

●公益社団法人青少年健康センター 理事
茗荷谷クラブチーフスタッフ 井利 由利 氏
●ディースタンダード株式会社
代表取締役 小関 智宏 氏　　取締役 池田 千尋 氏
●ディースタンダード株式会社で働く当事者の方

今回の交流会は３部構成で行い、第１部では茗荷谷クラブの井利氏より、ひきこもりを社会と個人と家族の３つを見て社会全体の問題としてとらえ支援すること、多様な社会参加のあり方を模索することが必要であると話していただきました。また、社会復帰には職業獲得と自分のことは自分で決めていいことの２つの面があることなどを説明していただきました。第２部ではディースタンダード株式会社の小関氏より、若者が中心となって働けるITの会社の創業からソーシャルファームの認定までの取り組み、相談先があることで心理的的安全性、安心

した気持ちで仕事を続けられること、通所することにこだわり生活リズムを作ることであることなどについて事例と共に説明していただきました。最後に座談会・質疑応答として、事前にいただいた質問や当日いただいた質問に回答しながら当事者の方とひきこもりから就職するまで、就職してからの取り組みや変化について支援機関、企業も交えて座談会を行いました。当事者、支援機関、企業の３つの視点からひきこもりから社会への一歩を踏み出すことについて考える機会となりました。

就労支援のお問い合わせ

電話：03-3264-2153　FAX：03-3556-1223
E-mail：chiyoda.syuroushien@city.chiyoda.lg.jp

発行：千代田区障害者就労支援センター　2023年度第62号（令和５年10月20日発行）
取材協力：葛飾橋病院デイケアセンターオアシス
毎回、働く障害のある方やその職場を紹介していきます。次号もご期待下さい。